

## アカデミック英語 No.1

## 旧帝大の英語長文を「論理構造」で読む

## —— 段落の役割を見抜く

**🎯 今日のゴール：** 英語長文を「単語の意味を積み上げる」読み方から「段落の論理的役割を見抜く」読み方へ転換する。各段落が「問題提起・具体例・反論・結論」のどの役割を担うかを3分で把握し、設問に対して段落構造を使った根拠ある答えを返せるようになる。

**📖 新課程対応版（2026年改訂）** | 論理的読解・段落構造の基本は新課程「論理国語」で強化されています。本講座では英語学術文章の実戦で完成させます。

## 🌟 この授業の問い

1. 英語長文の段落には「役割」がある。その種類を言えるか？
2. 「筆者の主張」はどこに書かれているのか？ 見つける方法は？
3. 「具体例」と「主張」を混同せずに読めているか？

※ 授業後にもう一度この問いを見て、答えを書いてみよう。

## 📌 現状確認 —— なぜ旧帝大の長文は難しく感じるのか

よくある誤読パターン	正しい読み方
全文を均等に読む（重要度を区別しない）	段落の役割で「重要度」を判断して読む
具体例を「主張」だと思ってしまう	具体例は「主張の証拠」であり主張ではない
反論段落を「筆者の意見」だと誤解する	反論は「後で覆されるために提示される」
設問を先に読まずに全文を読む	設問を先に読んで「何を探すか」を決めてから読む

**💡 この授業のアプローチ：** 旧帝大の英語長文は「意見論述型（argumentative）」が主流。段落の役割（①問題提起 ②反論・譲歩 ③筆者の主張 ④具体例 ⑤結論）を見抜けば、知らない単語があっても全体の論理が掴める。

## 採点者の視点

## 採点者はここを見ている —— 英語長文・論理構造で合格答案はこういう「構造」をしている

## ① なぜ同じ答えでも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

**「正しい内容を書いている、論理の構造が見えない答案は、採点者の印象に残らない。」**

英語長文・論理構造では、段落の役割を見抜く根拠の理解が答案の質を大きく左右します。

## ② 英語長文・論理構造で採点者が見ているポイント

「トピックセンテンス→サポート→まとめの構造を意識した」と示した答案が採点者に「論理的に読んでいる」と映る

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。答えを出すだけでなく、根拠を一文添える習慣を意識しながら取り組んでください。

## ③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「答えが出るか」ではなく「思考の構造を説明できるか」です。この授業で習得する「論理を俯瞰する」視点は、あらゆる試験形式に通用します。

## 続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所